



組合が地域や組合員との絆を大切に、協同組合の発展に努めています。

東日本大震災から4年が経過し、浜や地域の環境も変わってしまっている。震災前と比べて、復興の進捗が著しい。震災前と比べて、復興の進捗が著しい。震災前と比べて、復興の進捗が著しい。

ワカメ生産回復へ 塩蔵、数量・価格とも好調



佐藤俊市部会長

注目ニュース・トピックス

共販入札は、気仙沼市の当漁協が流通センターで2月5日にスタート。昨年初回は24%上回る4604円平均で落ちた。その後入札を重なることに上り、6回目の3月25日は6057円平均となりました。

品質よく、在庫も消化

ワカメのボイル塩蔵が出荷数量、価格とも好調です。3月までに6回の共販入札を終え、904トン、4億9137万円、平均10.1円単価5435円（中芯含む）の実績。前年同期比は数量135%、金額170%、単価126%です。今漁期は震災前に近い1万3610トン（原簿換算）の生産が計画され、着業者には一息つけるシーズンとなります。



ボイルしたワカメの冷却作業（気仙沼市の波路上漁港）

広報「海と共に」発刊に寄せて

経営管理委員会会長 丹野一雄

組合が地域や組合員との絆を大切に、協同組合の発展に努めています。組合が地域や組合員との絆を大切に、協同組合の発展に努めています。組合が地域や組合員との絆を大切に、協同組合の発展に努めています。

ギンザケ出荷活発化



ギンザケの上場、重量選別（石巻市場）

刺身向け拡大、活じめ1800トン

養殖ギンザケの水揚げが3月18日から始まり、大型連休をにらみこれから活発化していきます。この数字で、このままならこれに近いくらいは「いまだ」と期待。気仙沼総合支所は、内湾系で一部支所の組合員が品質重視で収穫を控え、一部支所が外洋系で減る見通しを示したことを挙げ、「計画より若干少なくなるだろう」と話しています。

餌による育成管理は、昨年度で試験的な実施にとどまっていた。生産経費59のうち、国のがらみは養殖復興支援事業に参画した35経営体が行う。同事業の要件で、活じめは30%以上、無加水給餌は1%以上と定められている。活じめは刺身向けを狙ったもので、生産見込みなどから1800トン程度が予定されることになりました。

イサダ残り半月

値よく、漁獲枠消化に期待

イサダ漁が3月6日から始まり、気仙沼、志津川、女川の3港に70隻余りが水揚げしています。今季の漁獲枠は1万6000トン、漁期は3月末までで、いずれも昨年と同じ。昨年は荒天休漁と漁模様の悪化で枠を5000トン余り残しただけに、残り半月の漁期に枠消化の期待がかかります。漁前半は、ハシリを除けば天候に恵まれて昨年より操業日が増え、1日400〜480トンペースで水揚げ。女川入港船は近場に漁場形成され安定、全船ほぼ上限漁獲が続きました。志津川、気仙沼入港船は漁場がかわり、遠のいたりで難航気味でしたが、遅くまでねばり上限まで獲る船が多くなりました。価格は昨年より良く、50〜45円で安定的に推移。例年と同様に食料向け乾燥加工が冷凍加工の上を跳ねる展開で、女川の食料向けは50円以上の日が多くなりました。

原発事故の影響による風評被害などで、水揚げの多くが震災前の水準に戻らず価格も下がっています。単価アップは簡単ではありませんが、昨年度は経済事業部で新設した事業企画班で鮮力キの予約販売を行う「おらほのカキ市場」を実施しました。これはこの取り組みの拡大を目標とするもので、この仕組みがホタテやホヤにも導入できるか研究していきます。

このように組合全体としての取り組みや、今の時期は何をしたいのか、何の水揚げが最盛期か、どのようにしたら「浜」の収入を上げられるか、等、誌面を通して皆さまにお知らせいたします。

これからは、水揚げ状況や販売事業だけではなく、購買事業や信用共済事業についてもいっそう力を入れて改善を図りたいと考えています。

最後に、海とともに「更なる復興」を成し遂げるため、組合員の皆さまの強い結束力で、明日の漁業へ向かってともに頑張りますようお願い申し上げます。

JFマリンバンク「年金定期」推進中

組合からのお知らせ

当漁協のJFマリンバンクは本年度、新商品「JFみやぎ年金定期貯金」を展開、金利0.4%を適用しプレゼントを用意しました。漁協女性部と連携し推進している「女性部定期」についても金利を0.4%に引き上げ、0.3%の「震災復興応援定期」と合わせ3つの定期貯金で推進キャンペーンを展開しています。

商品名	JFみやぎ女性部定期貯金	JFみやぎ年金定期貯金	震災復興応援定期貯金
キャンペーン期間	平成27年4月1日～平成28年3月31日	平成27年4月1日～平成28年3月31日	平成27年4月1日～平成28年3月31日
対象者	「JFみやぎ女性部カード」を窓口にて提示した個人	「JFみやぎ年金カード」を窓口にて提示した個人	個人のお客さま
預入金額	1口10万円以上	1口10万円以上	1口10万円以上
預入期間	1カ年(自動継続)	1カ年(自動継続)	1カ年(自動継続)
金利	0.400%	0.400%	0.300%
預入条件	①JFみやぎ女性部カードの窓口での提示が必要 ②自継続元加式とし、2年目からは通常店頭金利での取扱となる	①JFみやぎ年金カードの窓口での提示が必要 ②自継続元加式とし、2年目からは通常店頭金利での取扱となる	①自継続元加式とし、2年目からは通常店頭金利での取扱となる

キャンペーン定期商品

金利0.4%、プレゼントも

継続の預け入れで金利0.4%を適用。毎月、すまみプレゼントも進呈します。いずれも窓口でカードの提示が必要で、年金の受け取りがいつそう楽しみになりそうです。

おなじみの「女性部定期」はさらにうれしくなりました。これまでと同じく1口10万円以上、1カ年(自動継続)の預け入れ、JFみやぎ女性部カードの提示で、金利が0.1%上がり0.4%になります。

一方、昨年度下半期に実施した「つなぐ絆スーパースタイル」は周年に拡大し、期待に応えたい。たまたまの小鉢など品も魅力的に。窓口での入金、他金融機関やコンビニも含むATMの利用、キャッシュカードの新規発行などでポイントと付与し、10ポイントごとに好みの商品がもらえます。

信用共済部・飯尾部長の話、口より当組合にて年金を受け取っていただいているお客様に対して、何か出来るようにしたい。今回、感謝の気持ちを込めて、JFみやぎ年金定期貯金をご用意いたしました。毎月すまみプレゼントも用意しておりますので、ぜひ、最寄りの信用店舗窓口までお越しください。

「販売力強化」小野喜夫理事長に聞く



「販売力強化」をテーマに身を乗り出して話す小野喜夫理事長

当組合では東日本大震災後、漁業・養殖生産の復興、復興と併せ、販売力の強化に力を入れています。水揚げが十分に回復していないのにもかかわらず、福島原発事故のいわゆる風評被害もあって、震災前からの魚価低迷が続く、組合員漁家と漁協の経営が厳しさを増しているためです。

販売力強化による魚価の安定、向上を経営改善の一つの方策と考えます。水揚げ、販売の現場を陣頭指揮する小野喜夫代表理事に、販売力強化を聞きました。

販売力強化の狙い、必要性は、

小野理事長 大震災で何もかもなくなり真つ白な中で、これからも海に生きる、漁業を続ける一人ひとりが判断した。人はかなり減ったが、浜に残った人が地域社会を形成する。そこで生産を戻し消費者に届け納得した形で生活するには、それなりの準備でないと、気持ちも萎縮する。

必要なのは、販売力強化の狙い、必要性は、

小野理事長 大震災で何もかもなくなり真つ白な中で、これからも海に生きる、漁業を続ける一人ひとりが判断した。人はかなり減ったが、浜に残った人が地域社会を形成する。そこで生産を戻し消費者に届け納得した形で生活するには、それなりの準備でないと、気持ちも萎縮する。



東京・大手町のカキ小屋「宮城牡蠣の家」では殻付が産地直下



販売力強化をテーマに身を乗り出して話す小野喜夫理事長

販売力強化をテーマに身を乗り出して話す小野喜夫理事長

販売力強化の狙い、必要性は、

小野理事長 大震災で何もかもなくなり真つ白な中で、これからも海に生きる、漁業を続ける一人ひとりが判断した。人はかなり減ったが、浜に残った人が地域社会を形成する。そこで生産を戻し消費者に届け納得した形で生活するには、それなりの準備でないと、気持ちも萎縮する。

販売力強化の狙い、必要性は、

小野理事長 大震災で何もかもなくなり真つ白な中で、これからも海に生きる、漁業を続ける一人ひとりが判断した。人はかなり減ったが、浜に残った人が地域社会を形成する。そこで生産を戻し消費者に届け納得した形で生活するには、それなりの準備でないと、気持ちも萎縮する。

販売力強化の狙い、必要性は、

小野理事長 大震災で何もかもなくなり真つ白な中で、これからも海に生きる、漁業を続ける一人ひとりが判断した。人はかなり減ったが、浜に残った人が地域社会を形成する。そこで生産を戻し消費者に届け納得した形で生活するには、それなりの準備でないと、気持ちも萎縮する。

魚価底上げ浜を元気に/カキで一步、ホヤ後押し

困っているのはホヤの販売で、本年度はホヤに強く取り組みマーケットを広げていく。震災前は水揚げの7割が韓国に輸出されていたが、風評被害でストップしたままとなる中、水揚げが震災前と近づき国内で食べてもらえないといけなからだ。

また、カキ小屋は宮城産のこれから販売されていくので、国内なら遠くても鮮度、品質は大丈夫だろう。ホヤの成分を調べてそれを売りに消費を拡大する。また、浜では生で食べているが、蒸が伸びており、居酒屋も殻付を出し、殻付しか出さない店さえあるほどだ。

震災で宮城のカキが出なくなり、売り場、棚を失った。2年は棚を取り戻しきれなかったが、今季は広島、岡山、山陰の不作で絶対量が不足したこともあり、棚が広がった。水揚げ後、関東圏などなら広島産より1口早く付けられる。むき身と併せ殻付でも宮城産を覚えてもらい、皆とつしよに消費を拡大していく。

販売力強化で本年度の取り組みは、

小野 カキでは、昨年度に一つの形ができたのでそれを拡大したい。秋までに別の販売チャネルも構築し全国に発信していきたい。カキ小屋を増やし、ホヤなども置いてアンテナショップ的にアピールするのよいのではないかと。

困っているのはホヤの販売で、本年度はホヤに強く取り組みマーケットを広げていく。震災前は水揚げの7割が韓国に輸出されていたが、風評被害でストップしたままとなる中、水揚げが震災前と近づき国内で食べてもらえないといけなからだ。

また、カキ小屋は宮城産のこれから販売されていくので、国内なら遠くても鮮度、品質は大丈夫だろう。ホヤの成分を調べてそれを売りに消費を拡大する。また、浜では生で食べているが、蒸が伸びており、居酒屋も殻付を出し、殻付しか出さない店さえあるほどだ。

困っているのはホヤの販売で、本年度はホヤに強く取り組みマーケットを広げていく。震災前は水揚げの7割が韓国に輸出されていたが、風評被害でストップしたままとなる中、水揚げが震災前と近づき国内で食べてもらえないといけなからだ。

また、カキ小屋は宮城産のこれから販売されていくので、国内なら遠くても鮮度、品質は大丈夫だろう。ホヤの成分を調べてそれを売りに消費を拡大する。また、浜では生で食べているが、蒸が伸びており、居酒屋も殻付を出し、殻付しか出さない店さえあるほどだ。

困っているのはホヤの販売で、本年度はホヤに強く取り組みマーケットを広げていく。震災前は水揚げの7割が韓国に輸出されていたが、風評被害でストップしたままとなる中、水揚げが震災前と近づき国内で食べてもらえないといけなからだ。

また、カキ小屋は宮城産のこれから販売されていくので、国内なら遠くても鮮度、品質は大丈夫だろう。ホヤの成分を調べてそれを売りに消費を拡大する。また、浜では生で食べているが、蒸が伸びており、居酒屋も殻付を出し、殻付しか出さない店さえあるほどだ。

困っているのはホヤの販売で、本年度はホヤに強く取り組みマーケットを広げていく。震災前は水揚げの7割が韓国に輸出されていたが、風評被害でストップしたままとなる中、水揚げが震災前と近づき国内で食べてもらえないといけなからだ。

また、カキ小屋は宮城産のこれから販売されていくので、国内なら遠くても鮮度、品質は大丈夫だろう。ホヤの成分を調べてそれを売りに消費を拡大する。また、浜では生で食べているが、蒸が伸びており、居酒屋も殻付を出し、殻付しか出さない店さえあるほどだ。

困っているのはホヤの販売で、本年度はホヤに強く取り組みマーケットを広げていく。震災前は水揚げの7割が韓国に輸出されていたが、風評被害でストップしたままとなる中、水揚げが震災前と近づき国内で食べてもらえないといけなからだ。



女川町支所・阿部倫孝さん

女川町支所・塚浜地区の阿部倫孝さん(40)はギンザケ養殖に専業して13年になる。幼いころから

最初から漁師になるつもりだったが、家を出てサラリーマンとして工場

の仕事を2年経験した。戻って、いこのガソリンスタンドでアルバイトしながら、魚の選別や水

ギンザケ養殖いけすに立つ阿部倫孝さん

ギンザケ13年、震災で人員確保難航

伝いの1人はホヤ出荷が始まる毎日は来られな

も年配者が多く、いずれ人手不足になる。5年

が、震災で人員確保難航

ギンザケでの経営安定は「仕入れる稚魚を安く

組合からのお知らせ

養殖業・漁業の継続意思者の推移

(26年度回答率99.3%、単位:人)

調査	継続意思あり	継続意思なし	継続意思保留	無回答	計
H24/9	6,641	1,155	1,722	734	10,252
H25/9 ①	7,214	1,486	995	374	10,069
H26/9 ②	6,799	2,482	497	64	9,842
増減 ②-①	▲415	+996	▲498	▲310	▲227
H25/9 ①	4,145	227	157	68	4,597
H26/9 ②	3,786	147	145	12	4,090
増減 ②-①	▲359	▲80	▲12	▲56	▲507

●はじめに 当組合は平成26年9月、26年度期首の全組合員9842人を対象に、25年7月から26年6月までの1年間の復旧状況を調査しました。

●養殖業・漁業の継続意思者の推移 調査の結果、養殖業・漁業を継続する意思のある組合員は6799人となり、前年

平成26年度・組合員復旧状況調査結果の概要

415人減 6799人

●養殖業・漁業再開の状況 養殖業・漁業の継続意思のある正組合員は、4090人のうち3786人(92.6%)、前年度調査比2.4%増となりました。

●継続意思保留者 養殖業・漁業の継続意思保留の正組合員145人のうち、震災前(21年7月)の11人は再開、8人が廃業となりました。

●継続者の復旧状況 養殖業・漁業継続意思のある正組合員について、調査対象期間(25年7月～26年6月)と震災前の

同期間(21年7月～22年6月)の販売事業水揚げ実績(魚市場を除く)を比較しました。

その結果、北部地区は26億6000万円で復旧率48.3%となり、前年度調査(45.3%)より

全体では、103億5600万円で49.3%と半近しい復旧率となり、前年度(35.4%)より

「浜福神漬」再び 大谷本吉・おばちゃん倶楽部

かあさんのおもてなし

商品の「浜福神漬」は、「かぼちゃんじゅう」(おばちゃん倶楽部)のメンバー



「せつちゃん」「さつちゃん」「としちゃん」と呼び合っているが、手際よく調理を進める。朝摘みのフキノトウが主素材の「ばけみそ」が完成。一人が「しゃべって作っている」と笑顔を向ける。当漁協の女性部の調理室が整った。震災津波を乗り越えた4人は集まり、「浜福神漬」「かぼちゃんじゅう」などの人気商品を復活させた。復旧した道の駅での販売がファンを喜ばせた。

の味わいが絶妙な「浜福神漬」のヒットで知られたが、使っていた本吉町の加工場も、売り場の道の駅「大谷海岸」も津波で流された。

「4人は20年もの付き合い。すぐにその場で食べられるものがないと皆さんに言われ、そういうものを作っている」と、おばちゃん倶楽部の部長、4人の和氣あいあいと客の喜びは続きつづけた。

ギンザケ13年、震災で人員確保難航

伝いの1人はホヤ出荷が始まる毎日は来られな

も年配者が多く、いずれ人手不足になる。5年

が、震災で人員確保難航

ギンザケでの経営安定は「仕入れる稚魚を安く

ノリと資源管理に力 自慢は家族的な雰囲気



七ヶ浜支所の事務所がある当漁協
七ヶ浜町水産振興センター

七ヶ浜支所 組合員 693 人、うち准 533 人。職員は臨時 4 人含め 14 人。販売扱いは平成 25 年度で 10 億 756 万円となり、ノリ養殖と刺網などの漁船漁業を主力に、准組合員中心のアサリ水揚げも大きい。

七ヶ浜支所の事務所は当漁協七ヶ浜町水産振興センターの2階。職員は笑顔で迎えてくれた。高品質の乾ノリ生産とアサリ、カレイ類の資源管理が誇りだ。昨年11月からは県制定の「宮城水産の日」に合わせて「夕市」を開き、にぎわう。後継者育成が課題だ。

「支所の自慢は職員、組合員の家族的な雰囲気」と開口一番。「仲良く楽しく誇りをもつて働き、仕事でもおいしい物でも分け合って生きている」と笑顔で話す。



斎藤吉勝運営委員長



渡辺敏支所長代理

ノリの生産を支えているのは、7 単協合併で旧・七ヶ浜漁協発足の時に整備した陸上採苗施設。これを基本に、大所帯になった組合員が気持ち一つにして同じ種類の製品を作り、協同の精神で品質向上に努めてきた。施設は大震災で壊滅状態になったが、翌年に復旧させ44人が品質と協同精神を守っている。

「資源管理を実践してきた」と斎藤運営委員長は胸を張った。安定的に水揚げ、生活を維持できるように資源管理を先輩が築き、これを後継者に引き継ぎたいと願う。

アサリは採取を5〜7月に徹底し、自然繁殖だけで再生産。品質は「日本一」の評価があるほどで、サイズが大きく身もたっぷり。平均75歳ほどの准組合員が、経費をきりどかす。朝3時間の採取で年100万坪平均を得ている。種苗の購入や放流がないため、巻き貝などの外敵の侵入による被害も心配しない。

マコガレイなどのカレイ類は、支所や本所の仙台湾小型漁船漁業部会が禁漁区を設けて資源を管理、枯漁を防いでいることと知られる。

「夕市は「水産の日」となる毎月第3水曜日の午後3時から、水産振興センターで開催。旬の前浜産や県内産を格安販売し、15分ほどで完売している。塩釜市などに近い地の利も大きい。」「びっくりするほど盛況。たまに怒る客もいるが、それでも買いに来るといふ。

支所では、地元商工大会が震災前から毎月最終日曜に開く「七の市」でも魚介類を販売。メイン商品として人気がある。消費者に、毎月ここに来ればおいしいものが食べられると分かっても「ええとよい」と斎藤運営委員長。職員の販売も板についてきたといふ。収益を職員の給料にプラスしたいと考えた。

「2月は雨が降っていたのに50人くらい並んだ。地元で揚がったのを地元で消費するのが一番で、おいしかったと言われる」とうれしそうに表情を和らげた。たまに怒る客もいるが、それでも買いに来るといふ。

支所を訪ねて

表浜



石巻市給分浜の表浜支所事務所

表浜支所 組合員 302 人、うち准 159 人。職員は臨時 2 人含め 7 人。販売扱いは平成 26 年で 20 億 1312 万円、ワカメ・メカブとカキ、乾ノリ、アナゴなどの水揚げが大きい。漁業種類と魚種は豊富。

表浜支所では、昨年の水揚げが20億円を超え、震災前の水準に戻った。養殖のメカブ、カキの生産は三陸屈指だ。漁船漁業のアナゴは東京・築地市場で抜群の評価。後継者が多く活気のある浜としても知られる。

木村千之運営委員長は「担い手の多いのが自慢だ。組合員はやる気がある。一生懸命働き、そういつおやじの背中を見て後継者になる。若い人がいれば支所は安泰」と喜ぶ。今春、高校を卒業した2人が漁業に就いた。震災後、組合員の娘

婿3人が漁師となり、教えるため引退を先延ばしした父親もいるという。阿部恵一「支所長も「漁船漁業も養殖も活発な努力をたたえる。メカブはおおむね40人の生産で4億円、1人1千万円に」と話し、父親の働きが後継者に魅力と映ったことをうかがわせる。

支所は大震災後、コンビニの隣に仮設事務所を置いた。若者が集まった。「この人たちが食べさせなければならぬ」と身にしみて考えた」と木村千之運営委員長は打ち明けた。岸壁復旧に夢中になった。震災前の水揚げに戻ったのは、職員の頑張りも大きい。「少ない人数でこの表浜の水揚げを回している。仕事に見合うくらい給料をもらいたい」と木村千之運営委員長。昼食を取らずに仕事を続けた。土、日は当番制で荷受けしたりして、組合員

の意欲、水揚げに応えた。予想より1年早く20億円になったと喜ぶ。その20億円から主要品目の内訳（税込）を見ても、共販のメカブ1270万、4億5214万円、平均キロ単価356円、塩蔵ワカメ387万、2億284万円、同524円、生カキ200万、3億115万円、同1506円、乾ノリ1540万5千枚、1億2105万円、1枚平均7・86円、アナゴ158万、

「メカブは生産量も金額を押し上げる。例年3月1日から出荷が始まり、三陸のブライズスライダーとして他産地に影響を与え、阿部支所長は「メカブ、フコイダンの含有量が多いので市場の評価が高い」と品質に誇りを持つ。

アナゴ漁は「ハモ胴」と呼ばれ、簡漁発祥の地とされる。竹製の筒で大正時代に始まった。漁期は6〜12月。「水揚げは東日本ではナンバーワン。築地での評価が高い」と阿部支所長。

漁業種類の組み合わせでは、カキとワカメの兼る」と話す。

木村千之運営委員長は「小型漁船漁業でない漁業種類が見当たらないほど豊富。魚種も多い。阿部支所長は「世界三大漁場といわれる金華山沖の好漁場を控えていることもある」と話す。

後継者多くまた2人 水揚げ20億円、震災前戻る

自治体の震災関連支援

防災ラジオ

石巻市販売

石巻市は3月28日から防災ラジオの販売を始め、防災性の高い室内や大雨などで防災行政無線が聞こえづらい状況でもラジオで受信し室内で流す情報のなかで重要な内容と、全国瞬時警報システム（Jアラート）で流す気象庁（津波情報）などは、ラジオを聞いていない状態でも自動で電源が入り確実にも受信できる。各地区で順次販売会を開く。1台、個別受信機を設置していない世帯で1千円、設置している世帯で5千円。問い合わせは同市（電話0225・055・1111）防災推進課。

編集後記

前略 4年ぶりに当漁協の広報「海と共」を発刊することができました。皆様にはやりがいに結びつくという好循環です。そのためにこの広報誌が組合員はもとより地域の皆様や新規の仲間、また、後継者育成のために少しでもお役に立てればと願っております。

浜に笑顔→ヤル気→元気

この広報を通し「浜の復興・復活」を伝えて、1人でも多くの漁業者に笑顔が戻りますことを期待しております。みなさんの笑顔は「ヤル気」を起します。そして「ヤル気」は「元気」を生み出します。アノトオ猪木の「元気があれば何でも出来る」ということで「燃える闘魂」少し古いな、でも元気は大（指導部）